

審議事項の論点

【審議事項】

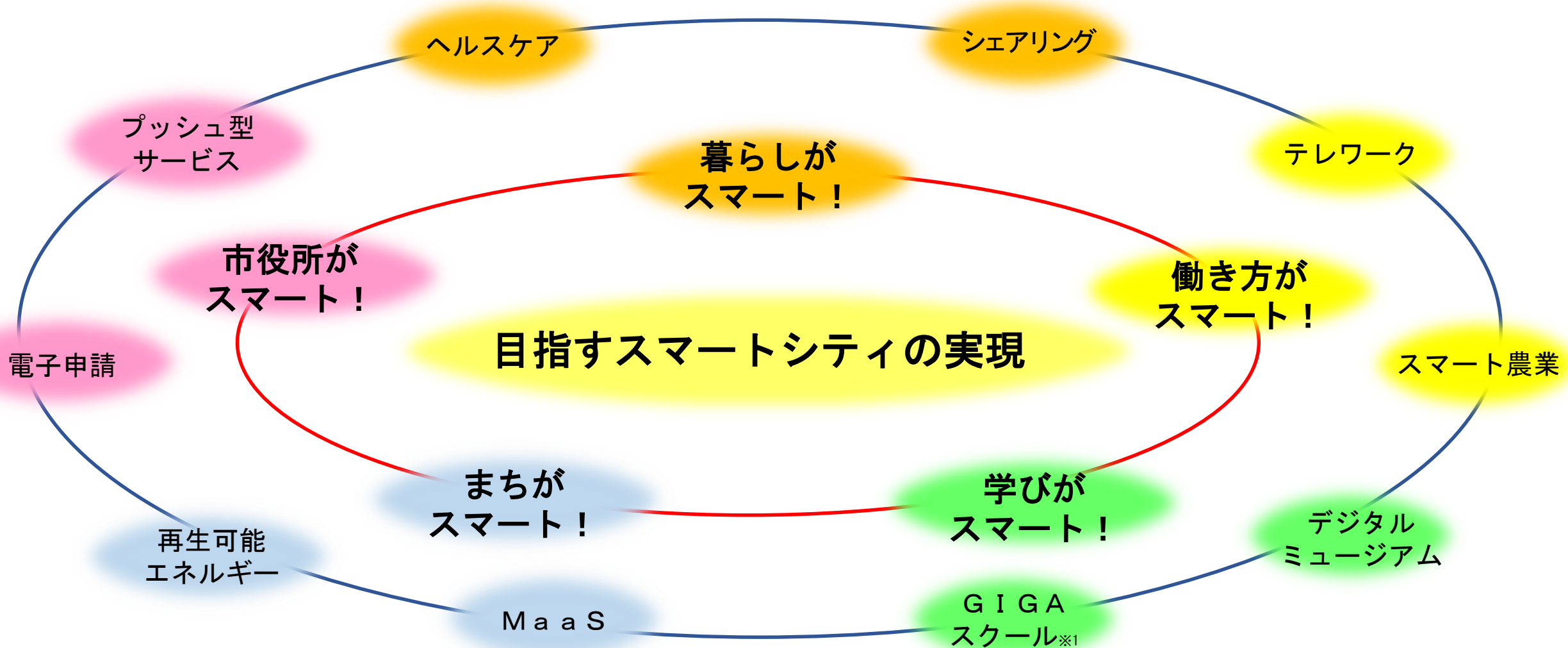
ビジョンの記載内容（後半）及び指標案について

【論点1】

取組みの方向性の記載内容及び指標案について

【原案16ページ修正案】5 取組みの方向性 ～5つのスマート！～

目指すスマートシティの市民（利用者）目線での実現に向けて、あらゆる分野を「暮らしがスマート！」「働き方がスマート！」「学びがスマート！」「まちがスマート！」「市役所がスマート！」の5つに分類し、様々な取組を分野横断的に順次実施していきます。



※1 GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現することにより、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に出すことを目指した取組み。

【原案17ページ修正案】5 取組みの方向性(その1) 暮らしがスマート!

目指す姿	方向性
買い物や医療、行政手続、エンターテインメントなど、日常生活における多様なサービスを場所や時間に捉われずに受けることができる	デジタル活用による外出を伴う多様なサービスのリモート化の推進
自己の健康に関する記録を確認したり、生活習慣をより良くするためのアドバイスを受けられたりするなど、健康意識を自然に高めることができる	データ活用により一人ひとりの健康意識を高め、健康な生活を長く続けられる仕組みづくり
高齢者や障害者等の支援が必要な方が生きがいを持ち、いきいきと活躍するための支援体制の整備が進んでおり、充実した生活を送ることができる	テクノロジーを活用し、日常生活に不安のある方や支援を必要とする方が、自分らしくいきいきと生活するための環境構築
国籍・性別・年齢・身体的理由等を問わず、全ての人が多様性を活かした自分らしい生活を送ることができる	デジタル活用により一人ひとりが多様な選択肢から希望する選択をしながら自分らしく活躍できる環境構築
空間・時間・情報等の多様な資源を無駄なく効率的に利用できる	多様な資源を他者と共有し有効活用するための環境構築
個人、企業、行政、地域コミュニティ等の多様な主体同士が容易にコミュニケーションを取ることができ、連携・協働による取組みがしやすい	デジタル活用により障壁を感じることなく多様な主体と双方向にコミュニケーションが取れる仕組みづくり

【原案18ページ修正案】5 取組みの方向性(その2) 働き方がスマート！

目指す姿	方向性
テクノロジーをはじめとする新技術や手法の導入により、持続的に生産性が向上している	ロボット、センサー、ICT等を活用した業務効率化や負担軽減による生産性向上
多様な働き方の中から自分にあった手法を選択し、ワークライフバランスとの調和が取れた仕事ができる	テレワークの促進など、誰もが柔軟かつ平等で自分らしい働き方を実現するための環境整備
仕事に有用な知見や技能を学ぶことができたり、実現してみたいアイデアを実際にチャレンジしたりすることができる	デジタル技術の活用方法の習得など、社会で活躍できる産業人材や、新たな価値や仕事の創出につながる未来人材の育成や環境支援

【原案19ページ修正案】5 取組みの方向性(その3) 学びがスマート！

目指す姿	方向性
時間や場所の制約なく、学びたい時に必要な学びを受けることができる	デジタル活用により誰もが生涯にわたり学び続けられる環境整備
多様な児童生徒が個別最適化された学びや豊かな心を育むことができるなど、質の高い教育を受けることができる	デジタル活用により個別最適化された質の高い教育を受けられる環境づくり
先人の生活を身近に触れる学びを通して、千葉市らしさの理解が深まり、まちへの愛着や誇りをより強く感じることができる	都市アイデンティティの確立と郷土愛を育むための文化財の保存・活用
全ての人々がデジタルデバイスを通じた多様なサービスを利用することができる	デジタルデバイスから提供される各種サービスを利用するために必要なスキルを学んだり、身近に操作方法等を確認できる環境整備

【原案20ページ修正案】5 取組みの方向性(その4) まちがスマート！

目指す姿	方向性
犯罪や交通事故が起こりにくく、有事の際は、消防・救急対応が迅速かつ的確に行われるなど、屋内外を問わず安全安心な生活を送ることができる	データやテクノロジーの活用による日常生活における安全安心対策の推進
公共交通や共有資産を利用して行きたい時に行きたい場所まで安全かつ楽に移動することができる	MaaS、次世代モビリティサービス等の活用による安全かつスムーズな移動手法の整備
災害発生時に必要な情報を迅速に取得し、安全に避難できるほか、避難所では電力等の最低限のインフラが機能しており、安心した避難生活を送ることができる	データやテクノロジーの活用による防災・減災対策の推進
再生可能エネルギーの利用やごみ削減などの環境保全行動を自発的に行っており、豊かな水辺や緑と調和したまちであることを実感できる	データやテクノロジーの活用による環境にやさしく負荷を最小化するためのエネルギー対策の推進
暮らしを支えるインフラが充実し、安全安心な生活を送ることができる	テクノロジーの活用による老朽化した生活インフラの効率的な維持管理の実施
新たな観光体験等を通して千葉市の魅力を感じることができる	テクノロジーの活用による観光資源の価値向上とMICE開催手法の多様化を契機とした新たな価値創造

【原案21ページ修正案】5 取組みの方向性(その5) 市役所がスマート！

目指す姿	方向性
<ul style="list-style-type: none">・ 様々な公共サービスが、行政と共に市民・企業・NPO法人・地域団体等により、各主体の特性や強みを生かして創出され、地域課題が解決されている。・ 市政にも市民が容易に参画でき、生きがい・やりがいを感じている。	<p>市民・企業等の公共サービス創出や市政への参画機会を高めるため、デジタル技術を最大限活用できる仕組みづくりや、各主体が連携してデータを積極的に活用できる仕組みづくりに取り組む。</p>
<p>自分に合った公共サービスが、適時に最適な形で示され、選択することができる。</p>	<p>市民のICTリテラシーを向上していくとともに、市役所と市民のやり取りのオンライン化を進めていくほか、市役所からのプッシュ型サービス・対話型サービスの実現に向け取り組む。</p>
<p>市役所の職員が市民や地域に寄り添い、様々な公共サービスを多様な主体と共に考え、共に創ることができている。</p>	<p>市民や地域に寄り添い、前例に捉われずに柔軟に考えることができる組織風土づくりやICT環境の整備に取り組み、データを積極的に活用しつつ、市民目線で課題解決できる職員を育成する。</p>

【論点1】 取組みの方向性の記載内容及び指標案について

【取組みの方向性について】

- ・ 千葉市の目指すスマートシティの市民（利用者）目線での実現に向け、わかりやすさを意識して、あらゆる分野を5つのスマートに分類し、分野横断の取組みを実施。
- ・ 各分類に「目指す姿」と「方向性」を設定し、それぞれの目指す姿が実現されることで、千葉市の目指すスマートシティが実現されるものとして作成。
- ・ 前回の部会において、「千葉市の目指すスマートシティをロジックツリーで分解した上で、改めて記載内容の見直しが重要」、「市民の関心等を意識して記載内容を精査すべき」との趣旨の御意見を踏まえて作業を行い、各分類ごとの目指す姿や方向性に不足する要素を補完するなど、見直しを実施。



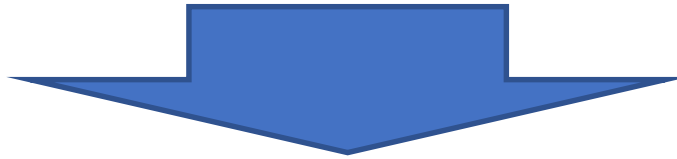
【論点1-1】

「本市の目指すスマートシティ」の実現に向け、各分類の目指す姿や方向性の記載内容は適当か。

【論点1】 取組みの方向性の記載内容及び指標案について

【指標案について】

- ・スマートシティの進捗状況を把握するための指標として、スマートシティ全般に関わるもの、及び、推進ビジョンの取組みの方向性に掲げる各分類の目指す姿の実現状況が見える化できる内容とした。
- ・主観的・客観的な指標を同数程度で構成し、市民意識と実態との乖離がないかを確認しつつ、進捗を把握できるものとした。
- ・前回の部会において、「目指す姿をロジックツリーで分解し、それに基づくKPIを検討すべき」、「主観的・客観的の両方で構成される指標が望ましい」との趣旨の御意見を踏まえて作成。



【論点1-2】

次ページの指標案は適当か。

【論点1】 取組みの方向性の記載内容及び指標案について

No		分類	種別	取得方法
1	スマートシティの認知度（スマートシティという単語を聞いたことがあるか）	総合	客	市民アンケート
2	インターネット接続機器の保有率	総合	客	市民アンケート
3	データの収集・活用に理解を示す人の割合	総合	主	市民アンケート
4	インターネットを使ったサービスを利用している人の割合	暮らし	客	市民アンケート
5	テクノロジーの恩恵によって便利さを実感している人の割合	暮らし	主	市民アンケート
6	テクノロジーの恩恵によって働き方が変わったと感じる人の割合	働き方	主	市民アンケート
7	テクノロジーの活用により生産性の向上や付加価値の向上に取り組んでいる企業の割合	働き方	客	企業アンケート
8	学習・研修環境にテクノロジー活用をしている人の割合	学び	客	市民アンケート
9	テクノロジーの恩恵によって学習・研修環境が向上したと実感している人の割合	学び	主	市民アンケート
10	安全・安心についての情報発信に満足している人の割合	まち	主	市民アンケート
11	環境に配慮した取組みを行っている人の割合	まち	客	市民アンケート
12	マイナンバーカード取得率	市役所	客	庁内データ
13	オンライン手続きの割合	市役所	客	庁内データ
14	市がオンラインで提供するサービスの認知度	市役所	客	市民アンケート

【論点2】

推進体制・推進手法の記載内容について

○全庁横断で推進

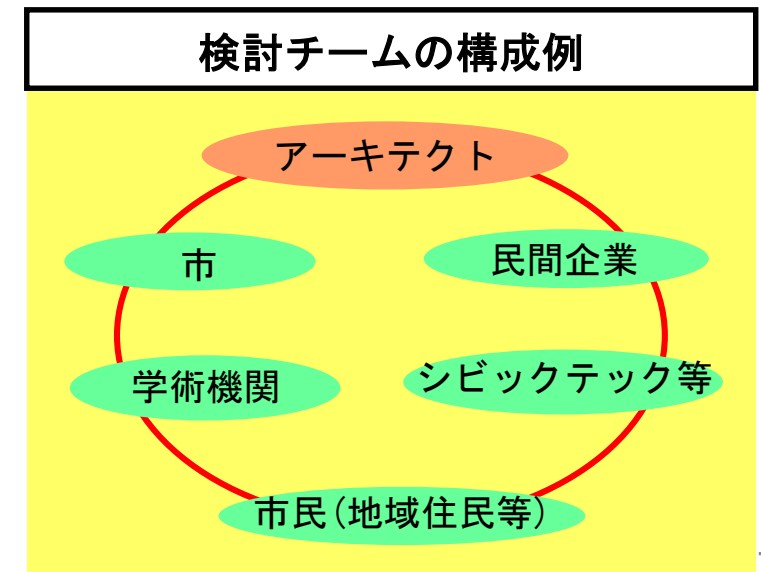
- ・スマートシティ推進に資する取組みは本ビジョンに基づいて推進し、次期基本計画における実施計画事業・個別計画事業に位置づけて進捗を管理

○産学官民での協力

- ・国内外のスマートシティの取組みに詳しい有識者に対して、必要に応じてアドバイスを受けられる環境を整備
- ・取組単位で、有識者や民間事業者、庁内関係課をはじめとするステークホルダーを巻き込んだ検討チームを必要に応じて設置
- ・検討チームの設置に当たり、実施取組ごとに最適なステークホルダーを選定するためのマッチングを実施
- ・推進状況等を踏まえ、必要に応じて、産学官民で構成する全市域を対象とした運営形態を検討

○シビックテックやエリアマネジメント団体等との連携・協働

- ・サービスの持続性やより市民目線に立ったサービスを提供する観点から、地域課題に応じて、シビックテックや新たな役割を担うエリアマネジメント団体等と有機的に連携し、将来を見据えたサービスを検討・実施
- ・シビックテック団体等との連携により、稼働世代を始めとする幅広い年齢層の市民がプレイヤーとして参加し、ともにサービス内容を検討・構築・改善するなど、協働によるまちづくりを実施



○できることから着実に推進（スモールスタート）

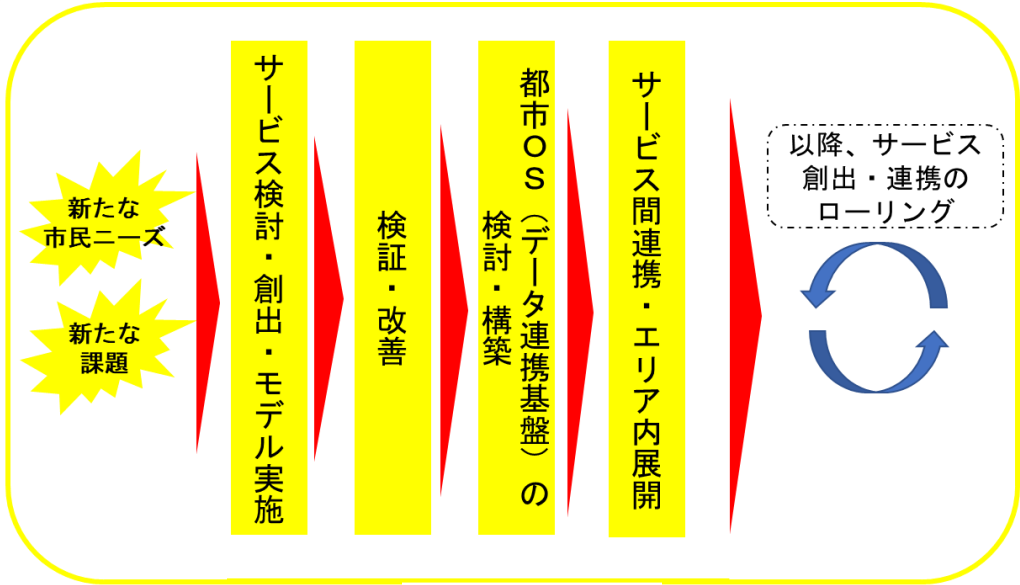
- ・チャレンジ精神を持って新たな技術や手法等を積極的に取り入れ、試行錯誤を重ねる中でイノベーションを起こし、最適なサービスの創出に繋げていくための体制を整備。
- ・エリアごとに住民等と目指すべき姿を共有しつつ、その実現に向けてモデル的な取組みから着実に実施（スモールスタート）。発現した問題に素早く対応し、推進力を維持したままエリア内に展開。エリア内での複数の取組みがつながり、より良いサービスに進化するとともに、他エリアへの横展開によりオール千葉市のサービスに発展。
- ・中立的な立場でプロジェクトを牽引し、調整する人材（アーキテクト）をエリア単位で確保。アーキテクトを中心とした産官学民で構成する検討チームを組織し、行政が主体的に関わる中で取組みを推進。段階的に行政の主体性を希薄化し、将来的には検討チームがエリアマネジメント団体に発展。
- ・住民の利便性向上やサービスの最適化の観点から、エリア内において単一サービスから複数サービスに充実を図るなど、市で共通的に活用する機能が集約され、かつ、スマートシティで導入する様々な分野のサービスを容易に連携できるデータ連携基盤（都市OS）の導入を検討・構築。将来的に各エリアの都市OS間でデータ連携を実現。

スマートシティの推進イメージ

【STEP1】対象エリアでの取組み



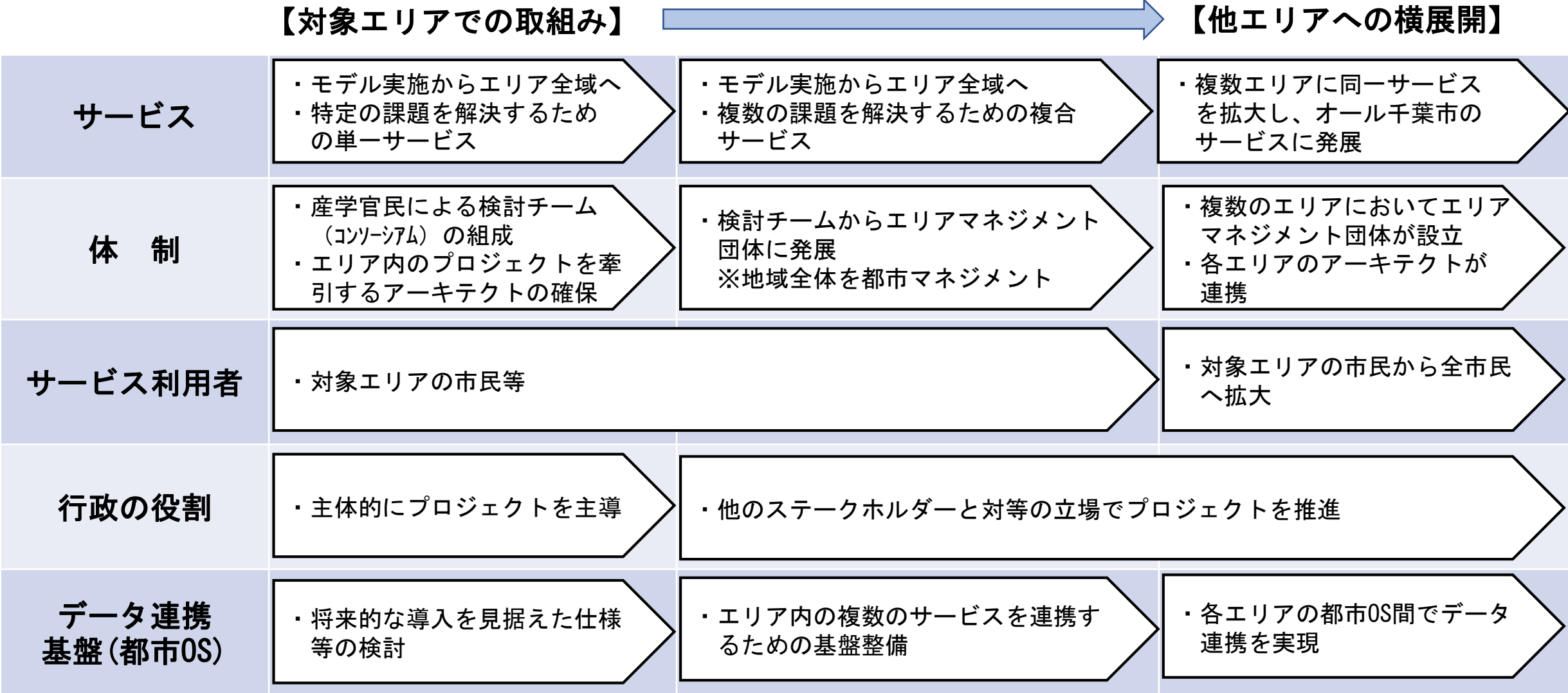
【STEP2】対象エリアで複数の取組みを連携



【STEP3】他エリアへの横展開



スマートシティの推進イメージ（詳細）



【論点2】推進体制・推進手法の記載内容について

【推進体制・推進手法について】

- ・本市の規模や地域特性を踏まえ、チャレンジ精神を持ちつつも、地域住民等と共に着実・堅実な推進を図る「スモールスタート」の考え方のもと、地域課題や市民ニーズに対してエリア単位での取組みからスタートし、サービスの成熟とともに他エリアに展開、将来的には全市的なサービスに拡大させていく点・線・面の進め方を想定。
- ・中心的な役割を担うアーキテクトの下で、多様なステークホルダにより構成する「検討チーム」をエリア単位で設置し、取組みを牽引。
- ・エリア内において単一サービスから複数サービスに充実させる際などに容易に連携するための仕組みとして、データ連携基盤（都市OS）の導入を検討・構築
- ・取組当初は行政が主体的にエリア単位での取組みを主導しつつ、検討チームの成熟にあわせて、行政の主体性を希薄化し、将来的に検討チームがエリアマネジメント団体として自立。



【論点2】

推進体制・推進手法の考え方や記載内容は適当か。

【論点3】

ロードマップの記載内容について

	現状	5年後	10年後
テクノロジー活用	○分野ごとの課題解決策の検討・実施	○分野横断的な課題解決策の検討・実施	○エリアマネジメントによる課題解決策の検討・実施
テクノロジー実証	○先行エリアにおける実証（自動運転・ドローン等）	○先行エリアにおける実装 ○他エリアにおける実証・実装	○実装事例の横展開・全市展開
データ連携	○サービスごとのデータ利活用 ○オープンデータの利活用 ○データ連携基盤（都市OS）の検討	○サービス間のデータ連携 ○官民データ利活用・連携 ○データ連携基盤（都市OS）の構築	○データ連携基盤（都市OS）の連携

20年後のイメージ

Society5.0の実現※1

※テクノロジー活用による経済発展と、地域課題の解決を両立した「人間中心の社会」の実現

・デジタルツイン※2によるリアルタイム課題解決、将来課題予測の実現

・AI技術を活用した各種サービスの生活インフラ化



※1 市民生活に浸透し、一般化している状態を想定

※2 現実に実在しているものを、デジタル空間でリアルに表現したものを指し、現実世界の仕組みや稼働状況などをデジタル空間に構築し、リアルなシミュレーションを可能にする技術

【論点3】ロードマップの記載内容について

【ロードマップについて】

- ・テクノロジー活用、テクノロジー実証、データ連携を軸とし、20年後を見据えて、5年後、10年後に、どのような状態が一般的になっていることを目指していくの見える化し、共有するために作成。
- ・市民にもわかりやすい・伝わりやすい内容とする。



【論点3】

記載内容は適当か。